
開いている

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
開いている

【Nコード】
N7511N

【作者名】
川崎ゆきお

【あらすじ】
終電間近の駅前是人通りも少ない。

終電間近の駅前是人通りも少ない。郊外の小さな駅なのでそんなものだろう。

宇喜多は改札を抜けた。人生の岐路に立つ……と言うほどのものではないが、決断を迫られていた。

下手をすると明日からのパートの仕事がなくなる。収入が途切れるのは嫌だが、今の仕事は自分には合っていないと思う。

人生の岐路……ではないのは、どちらに転んでもパート生活が続けているだけのことで、大きな変更点はない。

我慢して続けるべきか、次のパートを探し始めるべきかを決めなければいけない。

宇喜多は部屋に帰る前に、喫茶店とかで少し考えてみたいと思った。

だが開いていそうな店はスナックかカラオケぐらいだ。ファミレスはかなり遠くにあり、自転車でもなければ無理だ。

部屋に帰り、自転車でもた行くのも気が進まない。

学生のところ通っていたジャス喫茶があったがカフェになり、最後は飲み屋になり、その後すぐに消えた。あの店なら深夜までやっていた。

駅の反対側に小さな商店街があるが、最初からシャッターが閉まっている店ばかりだ。

しかし、そちらのほうがゴチャゴチャした一角があり、遅くまでやっている店ができているかもしれない。

宇喜多は久しぶりにそちら側へ渡る踏み切りを渡った。

踏み切りは橋ではないが、線路という川が流れている。踏み切りという橋を渡らなければ向こう岸へは渡れないのだ。

案の定駅前は寂れ、タクシーだけが並んでいる。既に市バスは終わっている。こちら側は駅前開発の荒波に飲まれることなく、静か

に枯れている。

宇喜多は早速商店街に入った。トンネルのように暗い。営業が終わっていることもあるが、殆どの店はシャッターを閉めたままなのだ。

それでも行灯看板がポツリポツリとある。生き残っているのはやはりスナックだ。

宇喜多はアーケードの端が見えたので、引き返そうとした時、純喫茶の看板を見た。

暗闇に明るく純喫茶と読める。

宇喜多は近づいた。窓ガラスの向こう側にテーブルが見えるし、客もいる。

宇喜多はやっと座れると思い、ドアを開けた。

しかし、そこにいる客やウェイトレスを見た時、入ってはいけない場所であることを知った。

誰も動いていないのだ。しかし人形ではないことも確かだった。

宇喜多は息を切らせながら踏み切りを渡り直した。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7511n/>

開いている

2010年10月9日03時16分発行